

もっと
知ッたい!

京都市

かん きょう

環境れぽーと

2023(令和5)年度実績

2024(令和6)年度版





地球温暖化を防ぐ取組は進んでいる？

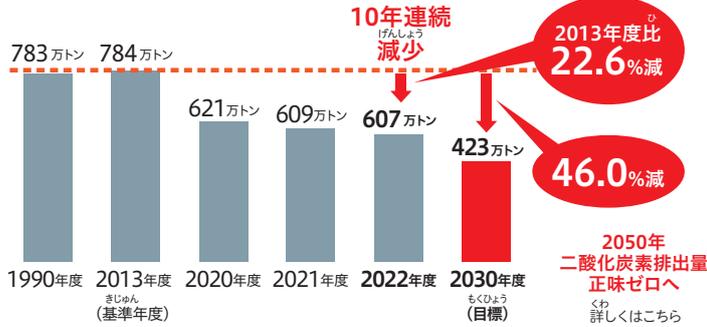
大気中にある、二酸化炭素(CO₂)などの「温室効果ガス」が増えすぎることによって地球が温暖化します。

2022年度に京都市で排出された温室効果ガスの量は607万トンであり、**10年連続で減りました。**また、エネルギー消費量は、ピーク時である1997年度と比べて**約3割減りました。**

関連する主なSDGs



京都市で排出された温室効果ガスの量



世界の平均気温の上昇を1.5度以下に抑え、地球温暖化による影響を軽減するため、京都市は2050年二酸化炭素排出量正味ゼロを目指しています。



私たちが使う電気、ガス、ガソリンなどのエネルギーの多くは、石炭や石油などの化石燃料から作られており、エネルギーをつくる時・使う時に温室効果ガスが出ます。

気温上昇を1.5度以下に抑えるためには、早い段階で二酸化炭素を減らす必要があるんだ。

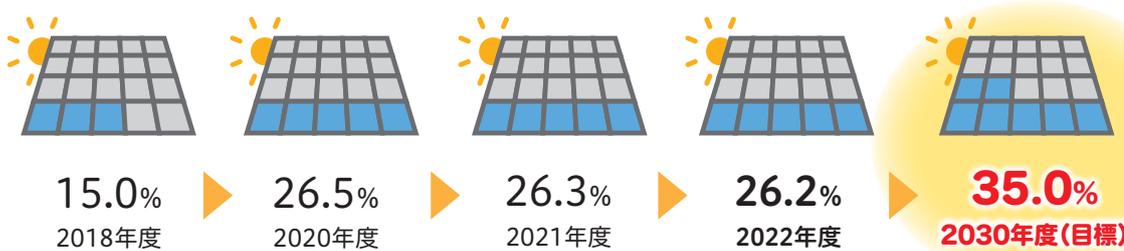


省エネ エネルギー消費量

※TJ:テラジュール (エネルギー量の単位)



再エネ 消費電力に占める再生可能エネルギー比率



※再エネ:太陽光など、自然の力でつくるエネルギー

太陽光発電などの再エネを増やしていこう!



2050年CO₂排出量ゼロに向けて

将来に向けたライフスタイル像や、実践していたきたい行動例等を定めました。また、市民の皆様と一緒に行動できる取組を行っています。

また太陽光発電の普及促進に向け、太陽光パネルや蓄電池などの導入を支援する「京都再エネクラブ」(2022年度から開始)や、みんなで買えば**お得**になる「みんなのおうちに太陽光」などの事業を行いました。

詳しくはこちら▼



京都再エネクラブ



みんなのおうちに太陽光

地球温暖化を防ぐために、できることからチャレンジしてみませんか

- 照明をつけっぱなしにしない
- 冷房・暖房の設定温度に気をつける
- 電気自動車などエコカーを使う
- 省エネ性能がより高い家電を選ぶ
- 太陽光など再生可能エネルギーで作られた電気を使う
- お家に太陽光パネルを取り付ける

チェックを入れてみよう!



大気や河川の水は安心・安全？

市民の皆様の健康や豊かな自然を守るために、京都市では国の環境基準よりも厳しい基準(市保全基準)を定めています。大気や河川の水は、**以前に比べ良い状況です。**

空気(大気)も水も、みんなの力で、昔に比べるとずいぶんきれいになってるよ



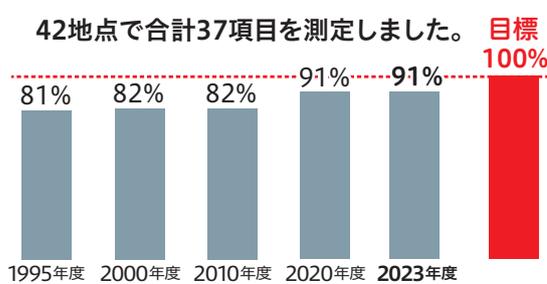
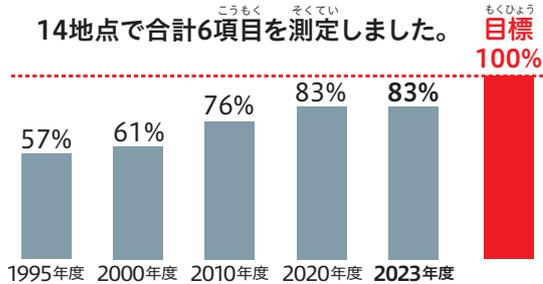
かんれん 関連する主なSDGs

6 安全な水とトイレを世界中に

12 つくる責任 つかう責任

大気汚染に係る市保全基準達成状況

水質汚濁に係る市保全基準達成状況



プラスチックごみを減らそう

プラスチックごみは、燃やすと二酸化炭素が出て、地球温暖化の原因になります。また、道路や川などにポイ捨てたごみが海岸へ漂着したり、海に漂うことで海の環境や観光・漁業などへ影響を与えています。

さらに、プラスチックは、波や風、太陽の光で細かく砕かれると、マイクロプラスチックになります。マイクロプラスチックを動物が飲み込むことで、生態系が影響を受けるとともに、人が魚や貝などを食べて、体に影響を受けることが心配されています。

京都市内の河川においても、令和3年度、4年度にマイクロプラスチック調査を実施し、全ての調査地点でマイクロプラスチックが検出されました。使用したプラスチックごみは、適正に分別して排出するとともにマイバッグやマイボトルを使うなど、使い捨てプラスチックをなるべく使わない生活が大切です。



マイボトルを利用して給水等できるスポットはこちら!! ▶



「持続可能な開発目標(SDGs)」とは

SDGsは、気候変動、自然災害、紛争、不平等などの課題を解決するため、2015年の国連サミットで掲げられた、「地球上の誰一人として取り残さない」を理念に、2030年までに達成を目指す17の国際目標です。京都市は、国から「SDGs未来都市」に選ばれ、強みである市民力・地域力・文化力をいかし、みんなで力を合わせて環境保全活動などを実践することで持続可能な社会を目指しています。



持続可能 ってなに？

今の地球環境が保たれて、未来まで続くこと。今を生きる私たちだけでなく、未来に生きる人たちも幸せを実感して暮らせること。

大気や河川の水が安心・安全であるために、できることからチャレンジしてみませんか

チェックを入れてみよう!

- 道や川、池などにごみ(空き缶、ペットボトル、食べ物の袋など)を捨てない
- 自動車はなるべく使わず、自転車やバス、電車を使う
- 道や公園、川などの美化活動に参加する
- 自動車を運転する時は、エコドライブを心掛ける
- 料理で残った油や食器についた汚れは紙でふき取るなど、なるべく流さないようにする

みんなが河川に親しみ、関心を持つことはきれいな河川を守ることにつながるよ





豊かな自然を守る取組は広がっている？

私たちの暮らしは、食料、木材、衣服など、生物多様性の恵みにより支えられています。地域を特徴づける生物多様性の恵みである京都の祭りや伝統文化を支えてきた生きものの保全や再生に取り組む団体が増えているなど、京都の自然環境を守る取組が広がっています。

関連する主なSDGs



私たちの生活と生物多様性の恵み



私たちの生活において、自然からの恵みは、生きものたちの豊かな個性とつながり(生物多様性)があるからこそ、もたらされるものです。

▶生物多様性を身近に感じていただくために

小学校の授業で自然観察会「地域生きもの探偵団」を26回(2023年度)実施し、生物多様性の大切さを学んでいただきました。

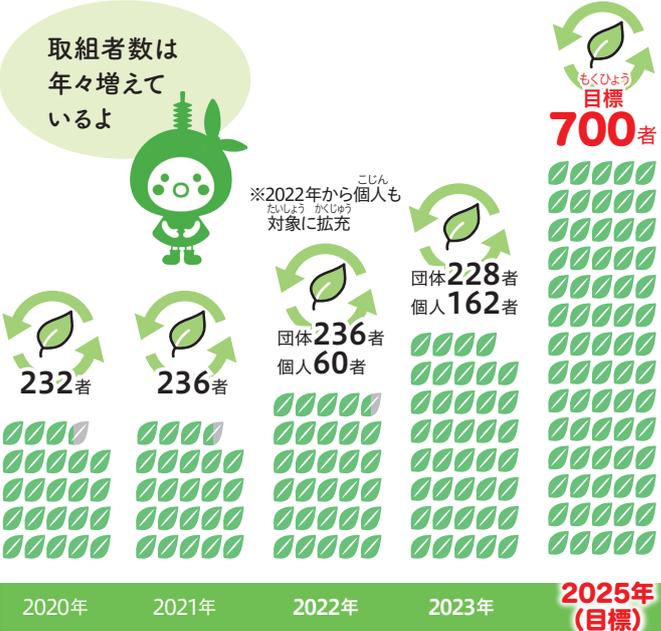
また、市民の皆様にはツバメ、セミ、ウグイス等の生息状況を報告してもらい、緑や水辺の豊かさ等を評価する「京の生きもの生息調査」を実施しました。

京都市ホームページ「京・生きものミュージアム」やSNSなどを通じて市民の皆様が楽しく学べるイベントなどの情報を発信していきます。



地域生きもの探偵団のようす

京の生きもの・文化協働再生プロジェクト取組者数



フジバカマとアサギマダラ



京都市文化協働再生

検索

自然環境を守るために、できることからチャレンジしてみませんか

- 京都(地元)でとれたもの、旬のものをなるべく食べる
- 動物園、水族館、植物園へ行き、生きものを観察する
- 川や山、学校などで生きものを見つけて観察する(京の生きもの生息調査)
- 野生の生きものに餌を与えたり、傷付けたりしない
- 山を守る活動に参加する
- 生物多様性のために取り組みたい行動を宣言する(京の生物多様性担い手宣言制度)

チェックを入れてみよう!

ほかにも身近な暮らしの中で取り組めることがたくさんあります。

詳しくはこちら▶





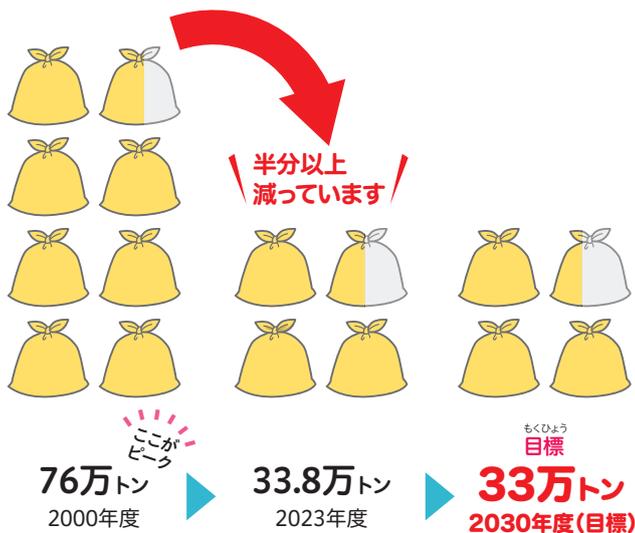
ごみの量は減っている？

京都市が受け入れているごみの量やその焼却量は、市民・事業者の皆様のご協力により、最も多かった**2000年度**に比べて**半分以上減っています**。
一人一日当たりのごみ量は政令市で最も少なくなりました。しかし、燃やすごみの中には、食べ残しや手つかず食品といった「食品ロス」、リサイクルできる紙ごみやプラスチックごみなどが多く含まれています。

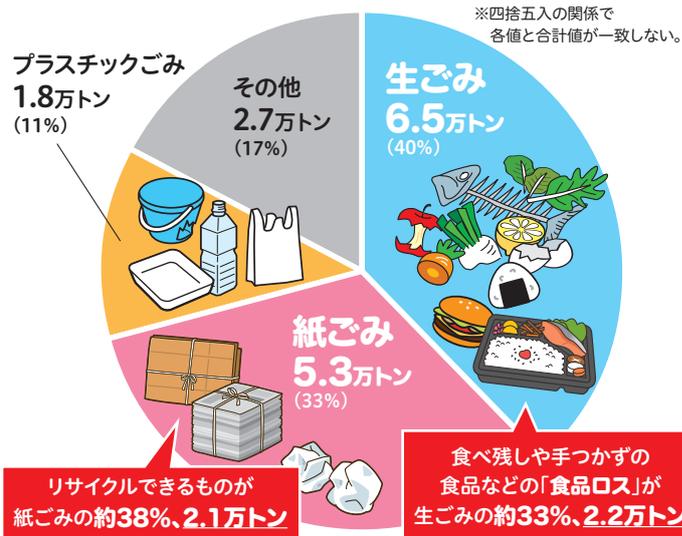
関連する主なSDGs



京都市のごみ焼却量



家庭から出る燃やすごみの内訳



「食品ロスゼロ」に向けて

2023年度の京都市全体の食品ロスの量は、なんと5.0万トン(家庭:2.2万トン、事業者:2.8万トン)。これは市民全員が毎日おにぎり1個分のごはんを捨てていることとなります。“もったいない!”
食品ロスは環境だけでなく家計にとってもマイナス。京都市のWebサイトで、商品棚の手前の食品から買う「てまえどり」や食品の正しい保存方法、使いきる工夫を楽しく紹介しています。みんなで「もったいない!」をなくしましょう。

「もったいない」を減らす知恵や工夫をご紹介します



家庭(1世帯4人家族を想定)での食品ロスを費用に換算すると年間約60,000円(処理費用を含む)!
もったいない!



市民の皆様と目指す2030年度の目標

市民1人当たりの家庭ごみの量にすると

●1日当たりのごみ焼却量
310グラム
(2022年度:330グラム)



●1日当たりの食品ロス排出量
38グラム
(2022年度:49グラム)



●1年当たりのレジ袋使用量
35枚
(2022年度:110枚)



●1年当たりのペットボトル排出量
45本
(2022年度:90本)



プラスチックごみを減らし、正しく分別することも重要! 詳しくはP2を見てね!



燃やすごみを減らし、資源を大切に使うために、できることからチャレンジしてみませんか

チェックを入れてみよう!

- 食品を買う時は、商品棚の手前から取る(てまえどり)
- 食べられる量だけ買って、まだ食べられるものは捨てない
- 新しく買う前に、借りる(レンタル)、共有する(シェアリング)ことを考える
- マイバッグやマイボトルを使う
- 調理する際の食品の「使いキリ」、食事の際の「食べキリ」ごみとして排出する際の生ごみの「水キリ」をする
- もの大切に使い、最後まで使い切る
- フリーマーケットやリユースのお店・サービスなどを利用し、いらなくなったものは他の人に売る・ゆずる
- ごみを捨てる時は、京都市の分別ルールを守りきちんと分別する



かん きょう

環境のこと、楽しくもっと知りたい!

子どもから大人まで、誰でも気軽に体験しながら、楽しく学べる環境学習施設があります。実際に体験してみよう!

開館時間及び実施プログラム等が変更になる場合がありますので、各施設のホームページ等でご確認ください。



さすてな京都



体験してみよう!

- 巨大なごみピットや迫力あるごみクレーン
- 身近な環境問題を学べる多彩な学習プログラム
- 高さ66mの展望台も!

▼Webサイト 

住所 〒612-8253 京都市伏見区横大路八反田29
 開館時間 9:00~17:00
 休館日 水曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始
 ※令和7年6月は無休、令和8年1月は水曜日及び木曜日
 URL <https://sustaina-kyoto.jp>

京エコロジーセンター



体験してみよう!

- 環境に配慮した暮らしのヒントとなる展示物
- 自分で調べものができる「かんきょう図書コーナー」
- 親子で参加できる楽しいイベント

▼Webサイト 

住所 〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13
 開館時間 9:00~21:00(1・2F展示コーナーは17:00まで)
 休館日 木曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始
 URL <https://www.miyako-eco.jp/>

青少年科学センター



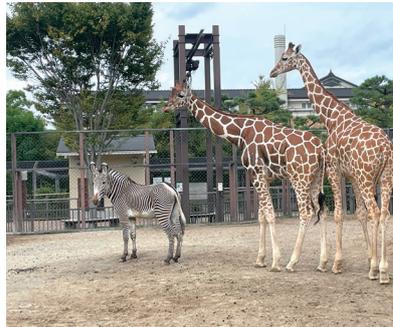
体験してみよう!

- 地球環境を視覚的に学べる「みらい地球儀」
- 化石に触れて生物の進化を学べる「化石トンネル」
- 昆虫の色や姿を見ながら生物多様性を学べる「むしむしワールド」

▼Webサイト 

住所 〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13
 開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)
 休館日 木曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始
 URL <https://www.edu.city.kyoto.jp/science/index.html>

京都市動物園



体験してみよう!

- 京都の豊かな自然を伝える「京都の森」
- 動物たちのごはんの様子を観察できる「ごはんですよ〜」を毎週土曜日に開催

▼Webサイト 

住所 〒606-8333 京都市左京区岡崎法勝寺町岡崎公園内
 開館時間 9:00~17:00(12月~2月は9:00~16:30)
 休園日 月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始
 URL <https://zoo.city.kyoto.lg.jp/>

提供:京都市動物園

京都市環境基本計画の年次報告書「環境レポート」はこちら

京都市の環境の状況について、詳しく掲載しています。なお、本冊子は「環境レポート」の概要版であり、京都市ホームページでも公開しています。

京都市 環境レポート 検索



きょうと生物多様性センター(2023年4月開設)

生物多様性に関する情報の集積や発信、多様な主体のネットワーク化、生物多様性保全の担い手育成などに取り組んでいます。交流オフィスでは、京都の生物多様性の状況や、生物多様性と私たちの暮らし・文化との関わりなどの紹介、生物多様性に関する相談対応などを行っています。

交流オフィス(左京区役所2階)
 ▶開所日時 月、水、金曜日の13:00~17:00(祝日・休日・年末年始除く)
 ▶利用料 無料



京都市環境政策局環境企画部環境総務課
 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
 TEL 075-222-3450 FAX 075-222-3426
 令和7年3月発行 京都市印刷物 第065032号



この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ!

